

「 生きる力を支える確かな学力の育成 」

－わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりを通して－

I 研究の内容

(1) 授業づくりについて

《研究目標》

- ◎「わかる喜び・できる喜び」が実感できる授業を展開し、学習意欲を高めることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図る。

「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業の要素となる3つの学び

- ◇体験的な学び・・・具体物（道具・素材・人など）や図などを活用したり、作業や体験などの活動を十分に取り入れたりすることにより、知識や技能を活用する意識を高め、考えを深める学び
- ◇学び合い・・・友だちと関わり合う場面で、互いの考えを尊重し合い、自分の考え・意見を工夫して他に伝えたり表現したりする学び
- ◇振り返る学び・・・疑問に思ったり、納得したりしながら、自分の考え方はこれでよかったのかな などと、自分自身を振り返る学び

- ① 学びのバランスや結びつきを考慮して、単元や授業の計画を見直す。
- ② 児童がより成就感や達成感を得て、活用する力を育てられるように、学び合い、体験的な学習、振り返り、評価などの方法、時間、形態などを吟味し、実践し、改善する。

(2) 集団づくりについて

《研究目標》

- ◎互いに認め合い励まし合い高め合える人間関係を築く活動に取り組み、学級力の向上を図る。

- ① 秩序を保ち、学び合いを深めるための学習規律の形成を図る。
- ② Q-Uテストなどから集団や個の実態・課題を把握し、改善に向けたねらいを持って活動を組織・体験させる。

(3) 学習環境づくりについて

研究目標

- ◎家庭との連携を図り、発達段階に応じた取り組みを工夫しながら、授業の基盤となる基礎学力の定着や学習習慣の確立を図る。

- ① やわたタイムの活用（朝読書、繰り返し学習、英語活動）などを通して基礎学力の定着を図る。
- ② 家庭学習の充実をめざし、読書習慣・学習習慣の定着を図る。

II 研究の実際

(1) 授業研究

①第1学年授業研究 国語 くらべて読もう「じどう車くらべ」

・日 時 平成25年 11月21日（木） 2校時

- ・単元の目標
  - ◎知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の大事な言葉や文を書き抜くことができる。
  - ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。
- ◇ 「しごと」「つくり」の部分ごと色をかえたワークシートにより、「しごと」と「つくり」を正確に読み取るために視写が有効に働いた。余白に絵と仕事や作りに関わるキーワードを書きこませるようにしたが、この書き込みにより、個の理解度を見取ることもできた。
- ◇ 「しごと」「つくり」の視点から図鑑等の資料を読み、書き写す、文型にそって書き換える作業は、個の実態によっては難しさを感じたが、資料を読む・仕事と作りの書いてある文章を見つける・文型に合わせて書き直すという手順で丁寧に支援することにより、全員自分のシートを完成させることができた。
- ◇ 出来上がった自動車図鑑を読み合い、感想を付箋に書いてプレゼントする活動について、文字や絵につ

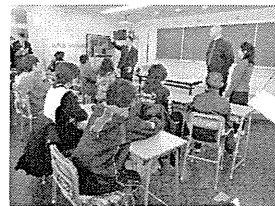
いてのコメントが多かったが、互いのよさを認め合うことができ、文を書く楽しさにつながった。

- ◇ 「文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気づき、直すこと」ができるように、書いた文を声に出して読む、チェックカードの項目にそって確認しシールをはる活動を続けた。文章の校正の仕方として、1年生には有効だった。

## ②第6学年授業研究 英語 「夢を語ろう」(職業など)

・日 時 平成26年1月31日(金) 5校時

- ・本時の目標
  - ・様々な職業の言い方を知る。
  - ・将来就きたい仕事について尋ねたり答えたりしている。
  - ・将来就きたい仕事について答える表現を書き写している。



- ◇ 英語の授業に対して「あまり楽しくない」という3人を大切にしたい。ゲームやアクティビティのみの楽しさではなく、センテンスを使い他と意思疎通できるコミュニケーションの楽しさを感じられるように、チャンツを取り入れリズムによって表現を覚えたり楽しさを感じたりできるようにしたことが楽しい授業とするために有効だった。チャンツをはじめとして、授業全体を通して担任が主導となり担任自ら「楽しみながら」やるようにしたこともよかった。
- ◇ ALT, JTE との連携の中には、時間的な課題や文化や意識の違いからくる難しさもあるが、担任の思いを伝えながら進めてきた。本時では、笑顔とアイコンタクトで、よい連携ができたことも「楽しい授業」につながっていた。

(2) 3つの学びを取り入れ「わかる喜び・できる喜び」が味わえる授業実践(一人一実践)

(3) 集団づくりおよび学習環境づくり

- ・QUテストを活用した学級経営について学習会
- ・QUテストの分析を生かした集団づくり
- ・家庭学習の手引きの活用
- ・「家庭学習と生活の記録」カードの取り組み(6月, 10月, 2月)
- ・八幡小学習規律の作成と学習規律アンケートの実施

## II 成果と課題

- ・「確かな学力」の定着を目指し、わかる喜び・できる喜びを実感させ、活用する力を育てる授業づくりに取り組んだ。体験的な学び、学び合い、振り返る学びを3つの学びとし授業を構成することで、児童の意欲を高め基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、それらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を図ることをめざした。山梨市北中ブロックの英語科推進の研究と同一テーマで取り組んだことの難しさや授業研究のみの実践的な研究を進めていくべきであることなどの課題が見えた。
- ・学習規律、学習習慣、学習集団、さらに生活習慣が、授業を支える基盤となっている。家庭も巻き込み、まさに、教育活動全体で、組織的、系統的、意図的に取り組んでいくことを今年度も確認した。学習規律については、発達段階に応じた系統性を考えた『八幡小学習規律』を共通確認のもと定着にむけた2年目であった。実態調査等の結果から目に見える成果に至ってはいないが、かなり客観的にまた厳しく授業への姿勢や態度について自己評価している様子が見られ、児童の意識も高まっていることを感じる。家庭学習の充実に向けて、今年度も各家庭に『家庭学習の手引き』を配布し、『家庭学習と生活の記録』カードを活用して全校で、家庭学習や生活習慣の改善に取り組むことができ、家庭との連携が深められた。

## III 成果物

- 1 第1学年国語科授業案「じどう車くらべ」
- 2 第6学年英語科授業案「夢を語ろう」(職業など)
- 3 各学級実践報告書(英語, 国語, 算数)
- 4 校内施設の英語表示, ゲームなどのアクティビティ集
- 5 家庭学習の手引きと「家庭学習と生活の記録」カード, 取組結果
- 6 八幡小学校学習規律と学習規律アンケート, 集計結果

(研究主任 清水 利子)